

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19720103

研究課題名（和文） サ変動詞の意味・用法の記述的研究

研究課題名（英文） A Descriptive Study on the Meaning and Uses of VN-suru

研究代表者

小林 英樹 (KOBAYASHI HIDEKI)

群馬大学・教育学部・准教授

研究者番号：60312865

研究代表者の専門分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：サ変動詞、意味、用法

1. 研究計画の概要

研究の進展度に関する和語動詞と漢語サ変動詞（外来語サ変動詞）のアンバランスを解消するために、新聞などからデータを集め、漢語サ変動詞（外来語サ変動詞）の意味・用法を詳細に分析する。

2. 研究の進捗状況

除くことを表すサ変動詞、連れて行くことを表すサ変動詞のように、サ変動詞をグループ分けし、それぞれのグループに属するサ変動詞の意味・用法を詳細に分析してきている。これまでの分析で、次のようなことが明らかになった。

(1) 「除外（する）」には、ある範囲の中から動かして、ある範囲の外におく「除外（する）」、ある範囲の中に入れて、ある範囲の外におく「除外（する）」があるが、「排除（する）」についても同様である。「受け入れた以上、排除するのではなく、難民と共生する道を探すべきだ（毎日新聞 2003 年 11 月 20 日）の「排除（する）」は、ある範囲の中から動かして、ある範囲の外におく「排除（する）」、「改正案は難民をいかに受け入れるかでなく、いかに水際で排除するかに重点を置いている（毎日新聞 2003 年 5 月 8 日）」の「排除（する）」は、ある範囲の中に入れて、ある範囲の外におく「排除（する）」である。

(2) 連れて行くことを表すサ変動詞、ついで行くことを表すサ変動詞は、(A) 連れて行くことを表すサ変動詞（「引率（する）」など）、

(B) ついで行くことを表すサ変動詞（「随行（する）」など）、(C) 連れて行くこともついで行くことも表せるサ変動詞（「同行（する）」など）に分類される。「帯同（する）」は、従来の国語辞典の記述（「一緒につれて行くこと」）では、(A) 連れて行くことを表すサ変動詞になるが、(C) 連れて行くこともついで行くことも表せるサ変動詞である。「日本国内では、今度の訪日に大統領が三大自動車メーカーの会長をはじめ、多くの経済人を帯同してくることに、違和感が出ている（朝日新聞 1991 年 12 月 21 日）の「帯同（する）」は、連れて行くことを、「チームに帯同して札幌から帰阪したものの、練習には参加せず、西宮市内の病院へ直行（スポーツニッポン 2006 年 6 月 10 日）の「帯同（する）」はついで行くことを表している。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

これまであまり分析されてこなかった漢語サ変動詞の分析が進み、研究の進展度に関する和語動詞と漢語サ変動詞のアンバランスを着実に解消してきている。

4. 今後の研究の推進方策

現在のところ、研究はおおむね順調に進んでいるが、今後分析する動詞には、データを集めにくいものがあるかもしれない。データを集めやすい体制を構築し、さらなる研究の進展をはかる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

- ①小林英樹、漢語サ変動詞の意味・用法の記述的研究-「引率(する)」、「随行(する)」などをめぐって-、『群馬大学教育学部紀要人文・社会科学編』59、1-8、2010、査読有
- ②小林英樹、漢語サ変動詞の意味・用法の記述的研究-「修理(する)」、「修復(する)」などをめぐって-、『語学と文学』46、印刷中、2010、査読無
- ③小林英樹、漢語サ変動詞の意味・用法の記述的研究-「発火(する)」、「着火(する)」などをめぐって-、『語学と文学』45、22-32、2009、査読無
- ④小林英樹、漢語サ変動詞の意味・用法の記述的研究-「除去(する)」、「排除(する)」などをめぐって-、由本陽子・岸本秀樹(編)『語彙の意味と文法』くろしお出版、65-84、2009、査読無
- ⑤小林英樹、漢語サ変動詞の意味・用法の記述的研究-「新築(する)」、「増築(する)」などをめぐって-、『語学と文学』44、1-8、2008、査読無

〔学会発表〕(計0件)